

12. 学術委員会報告

学術委員会から二件報告いたします。

I. 第 15 回日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) についての報告

概要

第 15 回 MSJ-IRI (MSJ International Research Institute) “International Conference on Difference Equation and Applications” は 2006 年 7 月 24 日から 28 日の間、京都大学において下記のように開催されました。

記

International Conference on Difference Equation and Applications

期間 2006 年 7 月 24 日から 28 日

場所 京都大学

主催 日本数学会、国際差分方程式学会、京都大学数理解析研究所、京都大学大学院理学系研究科数学教室、京都大学 21 世紀 COE 「先端経済分析のインターフェース拠点の形成」、京都大学経済研究所

後援 慶應義塾大学 21 世紀 COE 「統合数理科学」、岡山理科大学

学術委員 (Scientific Committee)

青本 和彦 (名古屋大学)

S. Elaydi (Co-chairman) (Trinity University, USA)

G. Ladas (University of Rhode Island, USA)

J. Hietarinta (University of Turku, Finland)

K. Okamoto (University of Tokyo, Japan)

G. Sell (University of Minnesota, USA)

A. Sharkovsky (National Academy of Sciences, Ukraine)

宍倉 光広 (Co-chairman) (京都大学)

J. Yorke (University of Maryland, USA)

プログラム委員会

西村 和雄 (Co-chairman) (京都大学)

濱谷 義弘 (Co-chairman) (岡山理科大学)

国府 寛司 (京都大学)

戸瀬 信之 (慶應義塾大学)

Local Organizing Committee

照山 博司 (京都大学)

柴田 章久 (京都大学)

岩城 秀樹 (京都大学)

文 世一 (京都大学)

参加者数

国外 91 人, 国内 53 人 (合計 144 人)

以上

講演

106 の講演がありました。

報告集

ASPM から報告集が出版される予定です。

サテライト研究集会

(1) 岡山理科大におけるサテライト

7 月 22 日に以下の講演が行われました。

M. Pituk (University of Veszprem, Hungary)

A. Rodkina (West Indies University, Jamaica)

M. Guzowska (University of Szczecin Poland)

I. Gyori (University of Veszprem, Hungary)

G. Ladas (University of Rhode Island, USA)

S. Elaydi (Trinity University, USA)

(2) 慶應義塾大学 21 世紀 COE 「統合数理科学」におけるサテライト

大学院生向けの講義が以下のように開催されました。

7 月 19 日

14:30--16:00 J. Yorke (Maryland)

“Determining the DNA sequence, a billion dollar logic puzzle”

16:30--18:00 J. Yorke (Maryland)

“The HIV/AIDS Epidemic: When is HIV most infectious?”

7 月 20 日

14:30--16:00 J. Yorke (Maryland)

“Chaos”

16:30--18:00 西村 和雄 (京大経済研)

“Chaos and Optimization”

(3) 京都大学数理解析研究所におけるサテライト

数理解析研究所共同研究集会「力学系理論その応用における新展開」(研究代表者: 国府寛司, 7 月 19 日から 7 月 23 日まで, 数理解析研究所大講堂にて) を開催し, 特に若手の研究者の方々の今後の研究活動に参考に

なるようにこの分野の研究動向と今後の展望に関する連続講演会を企画しました。講演者は以下の通りでした。

Eusebius Doedel (Concordia Univ., Canada)

Andre Vanderbauwhede (Univ. Ghent, Belgium)

Michal Misiurewicz (IUPUI, U.S.A.)

辻井 正人 (北海道大・理)

Tim Sauer (George Mason Univ., U.S.A.)

Marty Golubitsky (Univ. Houston, U.S.A.)

John Mallet-Paret (Brown Univ., U.S.A.)

II. 日本数学会季期研究所 (Mathematical Society of Japan, Seasonal Institute) について

2008年度(平成20年度)の第1回目の、「Probabilistic Approach to Geometry」(組織委員長 小谷元子)に続く、第2回を、2009年度(平成21年度)に「超平面配置」(仮称)をテーマとして、組織委員長 寺尾宏明(北大)で行うことを予定しております。

詳しいことは、数学通信でまたお知らせする予定です。会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、2010年度(平成22年度)の第3回目については、近々テーマを公募する予定であります。募集のお知らせは数学通信で行います。会員の皆様の多数の応募をよろしくお願い致します。

(学術委員会委員長 中島啓記)